

平成20年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール大会  
第61回全国高等学校バスケットボール選手権大会

彩夏到来 08 埼玉総体



平成20年8月1日(金) 四回戦

Mコート 第3試合 深谷総合体育館(深谷ビッグタートル)

チームA				チームB
県立能代工業	68	12 - 16 14 - 18 22 - 12 20 - 34	80	福岡第一
秋田				福岡

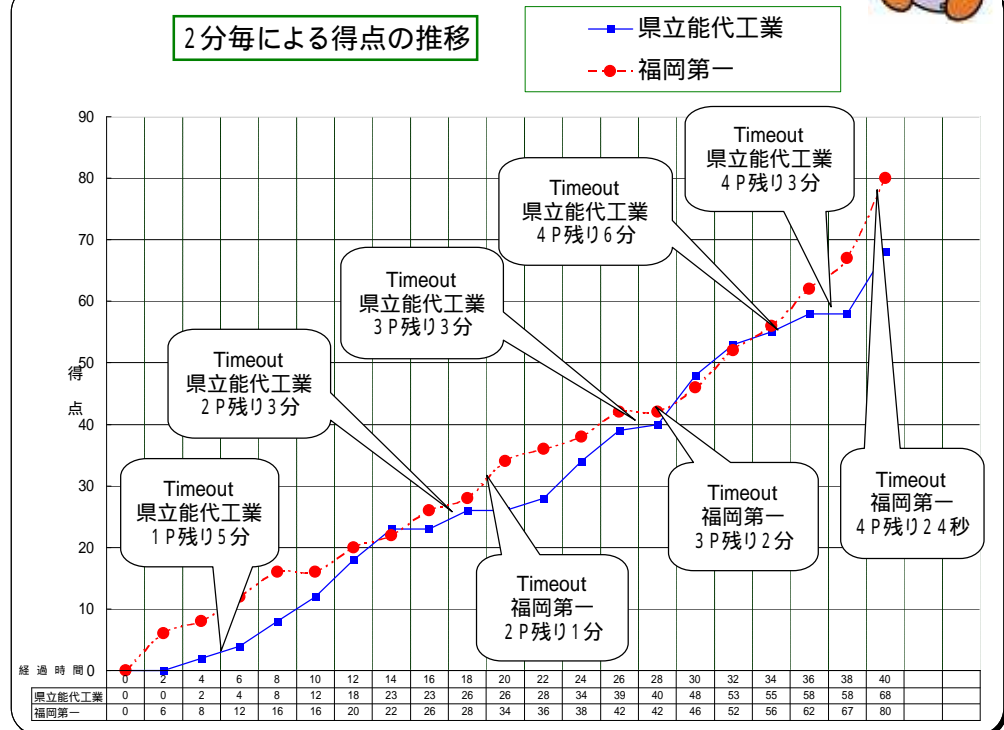
県立能代工業

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	高橋 陽	X	8	0	1	4	10	0	0	5	2	7	2	2	6	0	33
5	武藤 修平	X	12	0	1	6	18	0	1	1	3	3	3	1	3	1	35
6	館山 健太	X	20	4	10	4	10	0	0	4	3	7	4	1	2	5	34
7	飯田 啓人	X	10	0	1	4	5	2	2	1	1	0	0	1	0	0	27
8	宮城 大喜	X	11	3	6	1	2	0	0	1	0	3	2	1	0	0	18
9	湊 大樹	X	2	0	6	1	2	0	0	1	0	1	2	0	1	1	25
10	小川 昌志		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
11	藤田 洸	X	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4
12	伊藤 伸高	X	5	1	1	1	4	0	0	2	0	0	1	0	1	0	16
13	保坂 健太	X	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	7
14	廣江 翔平	X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
15	西島 宏哉		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	DNP
コーチ	佐藤 信長										0	4	5				
出場: ×は先発、/は出場			68	8	26	21	52	2	3	17	13	28	15	7	13	7	200
確率				30.8%		40.4%		66.7%			計	41					

福岡第一

番号	氏名	出場	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		TO	ST	AS	BS	出場時間 単位:分
				成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	田中 宏和	X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
5	仲本 翔	X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6	狩野 祐介	X	17	1	4	6	12	2	2	2	1	2	1	1	1	1	39
7	石川 裕一	X	2	0	0	1	4	0	0	1	1	3	0	1	2	0	12
8	玉井 勇気	X	6	0	1	3	6	0	0	1	0	1	3	2	1	0	30
9	和田 直樹	X	4	0	0	2	4	0	0	0	0	4	3	1	0	0	29
10	セック エルハシ イブヌ	X	19	0	0	9	16	1	2	3	4	12	2	2	1	2	24
11	早川 ジミー	X	21	1	2	9	15	0	0	0	2	6	0	1	2	1	34
12	豊嶋 龍生	X	2	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
13	園 幸樹	X	2	0	0	1	4	0	0	1	0	0	1	1	0	0	16
14	山崎 翔	X	7	0	0	0	0	7	8	0	0	3	3	2	0	0	6
15	橋本 泰志	X	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
コーチ	井手 口 孝										0	1	4				
出場: ×は先発、/は出場			80	2	7	32	62	10	12	8	10	36	14	11	7	4	200
確率				28.6%		51.6%		83.3%			計	46					

2分毎による得点の推移



戦評

ここまで圧倒的な力で勝ち上がってきた福岡第一と、激しいディフェンスからの速攻で大会2連覇を狙う能代工業の好カードとなった。  
第1P、立ち上がり福岡第一は#8玉井の1対1などで確実に加点。一方の能代工業は相手の高さが気になり、外角シュートが決まらず得点が伸びない。開始5分能代工業はタイムアウトで、修正を図り、積極的にゴールへ向かい始め、#7飯田のゴール下などで4点差まで詰め寄る。  
第2P、立ち上がり能代工業はハーフコートのゾーンプレスからマンツーマンで、相手のリズムを崩し、#6館山のゴール下などで一気に逆転。しかし福岡第一もここから踏んばり、#6狩野、#7石川の1対1で再逆転。ペースを取り戻した福岡第一が8点リードで前半を終える。  
第3P、能代工業はプレスを3クォーターに広げペースを作る。#5武藤、#6館山のゴール下、さらには#9湊のカットインで1点差に詰め寄る。福岡第一はディフェンスを1-1-3ゾーンに変え流れを取り戻そうとするが、能代工業#6館山の3Pシュートで波に乗り、能代工業2点リードで第4Pを迎える。  
第4P、開始早々#10イブラヒマの連続ゴールで落ち着いた福岡第一は#6狩野の3Pシュートで再逆転。能代工業も#8宮城の3Pシュートなどで喰らいつづも、残り3分福岡第一#10イブラヒマ、#11早川の連続得点で、付け入るスキを見せず、福岡第一が勝利を物にした。

主審	久保 裕紀	副審	有澤 重行	戦評	佐野 正 (埼玉県高体連)
----	-------	----	-------	----	---------------